

研修報告書 No.11

研修先： 土佐市民病院

高知県土佐市の土佐市民病院にて1ヶ月間研修を行いました。

最も印象に残っているのは、内科の外来診療を持ったことです。今まで外来を見学したことはあっても、自分の外来を持つのは全く初めての体験でした。わからないこと、慣れないことが多く、不安や恐怖心しかなかったことをよく覚えています。それでも、きびきびとサポートしてくれた看護師さんや、どんなことも相談しやすく、丁寧に教えてくれる上級医の先生方に助けをもらいながら、少しずつ業務に慣れていくことができました。どんな風に医療面接を進めて患者さんの訴えや不安を聞き漏らさないようにするか、それでいて患者さんを待たせたり、設定された外来の時間を過ぎてしまわないように、どんな順番で診察や検査をしていくかを考えることは、今後完全に外来を任されるようになる前に経験できて、とても良かったと思います。

自分の外来から入院させた患者さんの病棟管理も行いましたが、大学病院ではやってこなかった患者さんやご家族への IC、退院調整などを行い、たくさんのことを勉強できました。

また、大学病院なら院内で測定できる特殊検査が外注でしかできないためスムーズに実施できなかつたり、処方したい薬剤の在庫がなかつたり、最初はその代替案を考えることができず、とても困惑しましたが、与えられた医療資源の中で最大限の医療を提供する工夫をしたことが、地域研修でしかできない、かけがえのない経験でした。

外来が割り振られた時間以外は、自由な研修が許されており、病棟の患者さんとお話ししたり、様々な部位のエコー検査を見学して実際に綺麗に画像を出せるよう勉強したり、外科手術に入ったりしました。腹腔鏡のカメラを使用したり、たくさん範囲の開創を行ったり、手術に入る医師の数が多い大学病院では中々できないことを積極的に経験することができ、とてもありがたかったです。病院の雰囲気はとてもアットホームで、医師だけでなく、医療スタッフも含めた職員同士もとても距離感が近く、病院内ですれ違うたびに挨拶を交わすことに最初はびっくりしましたが、知人が1人もいないため心細い気持ちでいっぱい、病院内の地理が全くわからず何度も迷っていた私にとってはとてもありがたく、親切に声をかけていただき、質問に対しても丁寧に教えてくださったので、より早く病院に馴染めたと思います。

高知県の地域医療として、地域によって中核病院に限りがあること、首都圏では考えられないほど長距離の移動をして受診される患者さんがいること、若年層が県外の都市部へ流出しており、高齢者のみで生活している家庭が多いことも実感しました。地域医療では単純な医学的な要素だけでなく、病院と自宅の架け橋となる、リハビリ病院や療養型病院の病床

数も限られており、住居の場所や、家庭環境も踏まえて診療方針を決定する必要があるため、転院調整が難航しやすいと思いました。

この度、外来診療や、自分自身が主治医となつての病棟管理、地域での医療体制について、実際に経験し、考える機会を持つことができました。丁寧に指導して下さった土佐市民病院のスタッフの皆さん、研修をサポートして下さった高知医療再生機構の皆さん、研修に協力して下さった患者さんのおかげで、充実した地域研修を過ごすことができました。関わって下さった全ての皆さんに、心より深く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。